

雲よ——原点と越境——（谷川雁研究会機関誌）第6号

● 目次

三・一一後の世界と谷川雁・・・・・・・・・・・・・・・・	松本輝夫——○
——「世界の映像」が裏返され、「イメージからさきに変れ！」が必須の時代に	
【物語・谷川雁の全体像・番外編覚書】	
賢治、雁、仁三郎・・・・・・・・・・・・・・・・	仁 衡 琢 磨——○
——村、農業、原発	
三八年後の唐桑半島の風景・・・・・・・・・・・・・・・・	矢 部 顕——○
——谷川雁、交流（むすび）の家、そして唐桑半島	
「サークル村」終刊五〇年記念の筑豊・中間集會に参加して	
・大正闘争が発した集団性——光と闇の滲みに触れての断層・・・・・・・・	杉 井 倫 子——○
・三・一一直後の中間集會に参加して・・・・・・・・	此 花 咲 耶——○
・連帯／物語／うた —— 中間集會を振り返って・・・・・・・・	金 丸 謙 一 郎——○
反省なき『トム・ソーヤ』の日々・・・・・・・・	あ き あ か ね——○
——白から黒へのグラデーション	
群青色の残像に再会できる時・・・・・・・・	RIMIKOKU——○
——精神構造の軸を創る『物語活動（テーマ活動）』	
雁流『オオクニヌシ』できらめいたわが子たち・・・・・・・・	ひ つ じ ぐ も——○
詩人に固有の時・・・・・・・・	山 本 紀 志 子——○
——ランボーと谷川雁のアナロジー	
矢川澄子と谷川雁・・・・・・・・	内 田 聖 子——○
谷川雁と保田興重郎 戦争の内在化と戦後の歩み・・・・・・・・	北 野 辰 一——○
——「世界」の崩壊に直面して	

【資料編】旧制五高時代の谷川雁に触れて

当時の教授のご子息である小山紘さんの書状とお話から

執筆者紹介 編集後記